

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



活用事例

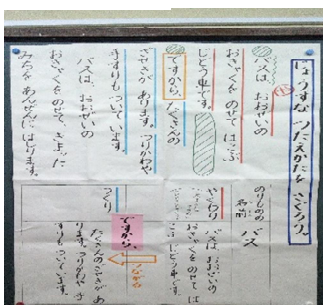


概要	
学校名	習志野市立袖ヶ浦東小学校
活用方法	国語科において単元計画に四つの学習過程を位置付けている。特に「見いだす」と「まとめあげる」に力を入れて日々指導している。「見いだす」では、単元の始めに言語活動のゴールの形を示し、児童が単元の見通しをもてるような工夫を行っている。「まとめあげる」では、単元により振り返りの方法等を工夫し、「書く力」と「読む力」の向上に努めている。
成果等	児童に学習の見通しをもたせることで、より一層意欲が向上し自分事として学習に取り組むようになった。振り返りでは、授業の中でわかったことや考えたことを基にしながらねらいをつかみ、自分の言葉でまとめることができるようになってきた。

1 児童が単元の見通しをもてるような工夫

第1学年「はたらく自動車」（言語活動：クラスで「のりものブック」を作る）

教師作成



①教科書からメモにおこす。



③完成形の見本を提示する。



②自分が選んだ書籍の各ページからメモにおこす。

児童の作品



完成した「のりものブック」の1ページ

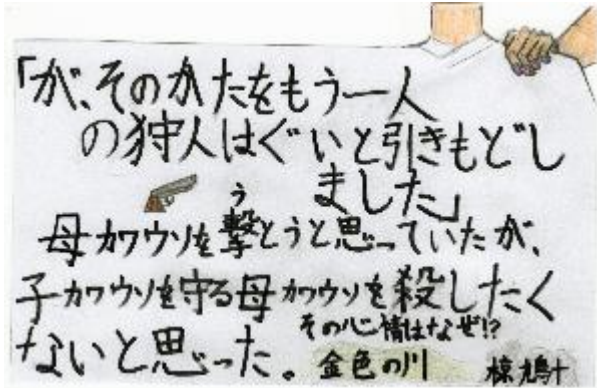
2 振り返りの書かせ方のバリエーションの工夫

※全て実際の児童作品より抜粋

本校で昨年度と今年度に行った振り返りの一部である。

(1) ポップの作成

(5年「大造じいさんとがん」)



自分のとらえたやま場を短い言葉でポップで表現する。

(2) オリジナルの本づくり

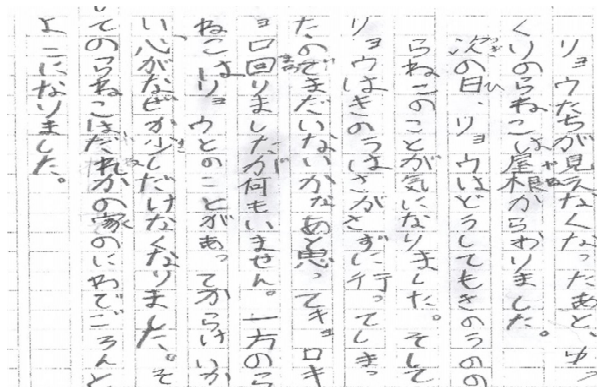
(2年「アレクサンダとぜんまいねずみ」)



アレクサンダの視点で書きかえる。

(3) 続きの物語を書く

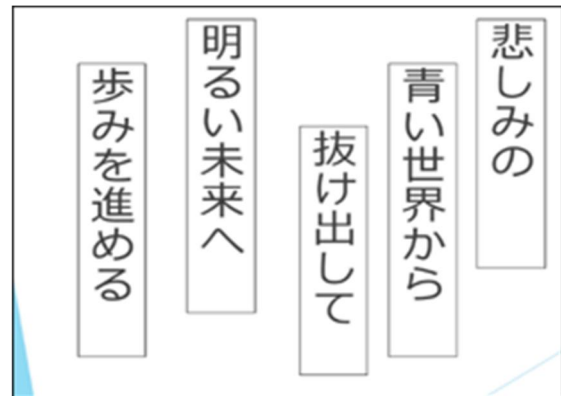
(3年「のらねこ」)



登場人物の性格と心情の変化をふまえて続きを書く。

(4) 短歌集にまとめる

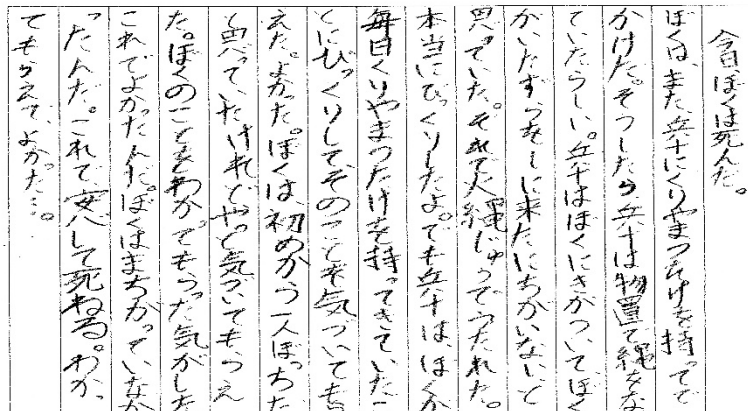
(6年「川とノリオ」)



物語の各場面毎の人物像を短歌にまとめる。

(5) 日記にまとめる

(4年「ごんぎつね」)



日記にまとめることにより授業を通してつかんだごんの心情をさらに読み深める。